

調査結果と児童生徒を結び付けた 授業改善のための分析の視点③



©県「ももっち・うらっちと仲間たち」

今号では、通信NO.8・NO.9に引き続き、自校の児童生徒の実態に応じた授業改善を進めるため、分析の視点の例を紹介し、全ての児童生徒が「分かった」「できた」を実感できる授業を行うための参考にしてください。



次のような取組になっていませんか？

例：四角形の対角線の性質についての設問
平均正答率だけに注目すると…



全国の平均正答率を下回っているから、四角形の対角線の性質をきちんと理解させる必要があるな…

四角形の対角線の性質についての理解を深めるために…

時間をとって改めて全員に四角形の対角線の性質を説明して、この設問に取り組みさせてみよう。

授業中

私はよく分かってるんだけどな…



先生は何を説明しているんだろう…

分かったぞ！

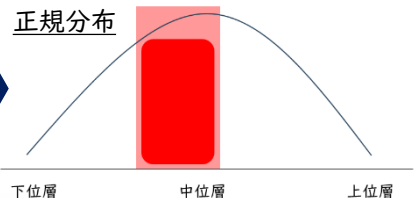
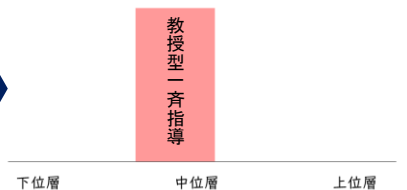
再度同じ設問に取り組みさせた結果を見ると…

やっぱり解けない子がいるな…全員に同じように解説したのでは、改善につながりにくいのかな…

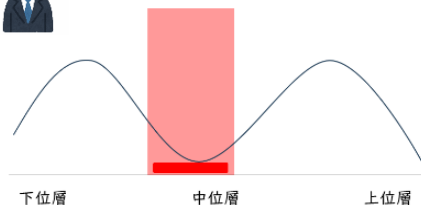
他にどんな手立てが考えられるんだろう？

全員を対象に設問の解説をしても、理解につながる事が難しい場合があります。集団の傾向や個の定着状況を確認し、個々の児童生徒が「何につまずいているのか」を把握することが大切です。その上で、「用語」の理解を促すのか、「性質」について確認するのかなど、つまずきに応じた効果的な指導方法の工夫を図っていきましょう。

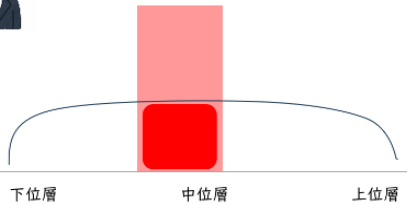
分かりやすい指導を意識しているので、中位層に焦点を当てた授業をしているな…



ふた 二こぶ × 教授型一斉指導



分散 × 教授型一斉指導



集団が正規分布の場合、中位層に焦点を当てた教授型一斉授業では、対象となる児童生徒が多くいるので、一律の説明であっても指導の効果が期待できる場合があると考えられます。

集団が2極化している場合だと、中位層に焦点を当てた指導を行うと、想定した効果が出にくい場合があります。習熟度別などの指導形態の工夫が考えられます。

集団が分散している場合も、対象となる児童生徒が少ないため、各層に応じた説明や、ペアやグループでの学び合いなどの指導形態の工夫が考えられます。

集団の傾向や個の定着状況を確認し、指導形態を工夫（一斉指導、習熟度、個別の課題等）することが、児童生徒の実態に応じた授業改善につながります。ぜひ一度、正答数分布で傾向を見てみましょう。

【正答数分布】

年生の 教科 は 正規分布 ・ 二こぶ ・ 分散 ・ その他